

第3回白根市「生徒指導会議」 学校と家庭、地域が 子供の生活習慣を 連携深めて指導

第1部会

発達段階に応じ、事前に親の勉強会の場を設ける

問題点：●公徳心に欠けている子供が多い（学校帰りにものを食べながら歩く。自動販売機から缶ジュースなどを買って、空き缶をポイと捨てる）●礼儀作法を知らない若者が多い●ほしも持てないとか、忘れ物をする子供が多い●善悪の判断もできない

対策：●これらは家庭に属する問題ではないか。しかし、私たちが個々の家庭に立ち入るわけにはいかない。一応の性格形成や基本的な生活習慣は三歳ごろに完成するとされているが、そういう専門知識も持ち合わせていない。したがって、発達段階に応じ、事前に親が勉強する場が必要。●毎日の生活の中で教えていくより方法がないのでは。要は社会性を身につけていくことが大事。●見かけたら、どこの子でも注意する（自制心が欠けていることが問題を生んでいるのではないか。自制心を養うためには）●やはり家庭生活が大事。●家庭ではおのの座を与える。●親の姿を見て子供は育つということから、家庭での育ち方が問題。●そのような子供は家庭に対してストレスがたまっていての子である。それを発散させる方法を考えるべき

問題：●父親の役割が欠けている

対策：●母親が甘いのではないか。父親は厳しすぎてもいけない。●父親には権威はいらぬ。むしろ小さいときの育て方に問題がある

問題：●交通マナーがよくない（自転車の傘さし運転、一人乗りなど）

対策：●やはり親の姿を見て子供が真似をしている。親自身の心がけが大事。●愛の一声運動というか、どこの子でも声をかけてやる

問題：●学校の規則が厳しすぎる（服装など、むしろ制限しないで自由にした方がよいのでは）

対策：●規則に幅を持たせた方がよい。しかし、エスカレートすると問題なくしても問題がある。

「一声運動」という声をかける意味と、「お互い」という意味、「親から先に」とか、いろいろな意味を含めた「あいさつ運動」ということで行ってはどうか。

いづれにしても、しつけの基本はまず家庭からということでお互いにかんばってみよう。

第4部会

一律でなく発達や性格、能力に見合った指導が必要

通した取り組みが必要である点。昨年からの継続という点。社会生活全体を考えると、あいさつは社会生活を育てる、明るい家庭をつくる、人間関係を結ぶという点。以上のことから「あいさつ運動」を今年も取り上げてはどうか。

あいさつと言っても地域により違いがあるので、一律な方法でなく地域、小学校単位で自分たちに合った方法で取り組み必要がある。

親の教育力：●白根の男子は育たないと昔から言われている。親の背を見て子は育つ」ということわざがあるが、家庭では父親があまりにも引つ込みすぎているのではないか。もう少し発言力とかを表に出していった方がいいのではないか

あいさつ運動：●各家庭や学校、地域で取り組んだ結果を話し合った。標語とか標柱を立ててとか、チラシや便りを出して、あるいは生徒会、児童会での取り組みが紹介された。

●家庭内ではやはりうまくないようだ。●父親と母親との間のあいさつ。これはどうしてもテレミ

テーマ
基本的生活習慣を身につけるため学校と家庭、地域がどのように連携して指導するか。

十一月二十六日、産業厚生会館で「第三回生徒指導会議」が開かれ、学校、PTA、地域の人たちなど約百人が集まり、これまでの実践結果や今後の方向について、それぞれの立場から意見を交換しました。今回は「基本的生活習慣を身につけるため、学校と家庭、地域がどのように連携して指導するか」をテーマに、五つの分科会で話し合いを進めました。その結果、昨年からの全体的に取り組んできた「あいさつ運動」をさらに強力に内容を広げて推進することとしました。分科会で話し合われた内容を要約して紹介します。

第2部会

基本的なしつけできれば
きまりもつくらずにすむ

基本的な生活習慣：●親がなんでもやってやる今の状態であるが、子供にやらなければならないかを自覚させることが大事。●小学生の場合、衛生習慣とも関連するが、洗髪、入浴、ハンカチ、はながみなどは親が常に指導しているためか徹底している。中学生では

うようになつたら、大人たちも捨てなくなつた。それで、全体的に各団体や学校など実態に応じ、何か奉仕活動に取り組んではどうか。

長髪を認めてもよいのではないかと、坊主の方がよい。しかし、なぜ坊主でなければならぬかについて、共通理解が必要である。

きまり：●学校で細かく言いすぎると、できない方が多いが、それには子供自身の自律的な精神を養っていくことが必要。その基本は家庭にある。家庭でしつけていかなければならぬことである。●現在の家庭に、それに対する指導力、教育力があるかどうか問題になる

家庭でのしつけ：●学校や行政とタイアップしてやっていく必要がある。特に学校の指導力が大切

●学校の行事や便りなどいろいろな機会を利用して、親が勉強していく必要がある。●家庭のしつけ、学校のしつけ、ともにしつかりや

第3部会

いろいろな意味で
あいさつ運動推進

問題点：●あいさつが学校ではできて家ではで

きない（地域により違う）●忘れ物が多い●自己中心的●集中力や根気がない●整理整頓ができない●物をそのままにする

あいさつ運動を推進：●全地域に共



になつてうまくない。●子供と親の間は非常に親しいあいさつが交わされている

一声呼びかけ運動の推進：●あいさつ運動を一步進め、あいさつ、きまりを守るなどを含めながら、一声呼びかけ運動を進めてはどうか。そして二者足並みをそろえて実践に移していこうではないか

対策：●学校として、子供の個性を見ながら個別的に、あるいは発達段階を捕らえて話し方の指導をする。●発表の機会を捕らえ、だれでも大きな声で発表できるように文書を配らせて、そのときに実際にあいさつや、必要なことを話す練習をさせる。●地域や家庭では、子供が忘れていたら地域の人の働きかけ、あいさつをさせるようにしよう。●地域の人を知らないのであれば、地域の行事にもつと子供たちを参加させよう。●中学生でも喜んで参加できるように地域行事を工夫する必要がある。こういうことで、自分もこの地域に生活する一人だということを、小さいときから心の中に植え付けていくことが大事。●学校や家庭、地域で、まずそのリーダーになる先生、地区の人、家族が正しい言葉やあいさつを示そう。●直してあげなければならぬ機会を見つけたら、すぐその場で教えてあげよう。●これらの実践を今後繰り返していこう

第5部会

よくない言葉はその場で
指導。話す機会も与える

現状：●子供たちは「こんには」とか「おじやます」という言葉やあいさつは非常に上手だが、ちよつと顔見知りでない地区の人に会うと、あいさつもしなないで逃げていってしまう。●何か聞こうと話しかけても、しつかりと答えられない

望むこと：●友達どうしでいかに話す言葉は少しくらい乱暴で

も、きちつと話さなければならぬときに正しい言葉使用をしてほしい。●学校、家庭、地域の中で、だれとでもあいさつし、しっかりした言葉が必要であることを話すことができる子供にしたい

問題点：●恥ずかしい。●話し方がよくわからない。●乱暴な話しぶりをしている。●きちつと話さなくても「はん」と言えば、「はんが欲しいのか」と、ほかの人が救ってくれる。●地区の人かどうかわからない

大きなテーマに向かつて、朝からいろいろ話し合い、あるいは貴重な発表をいただきました。この話し合いをばねに、明日からの子供たちの指導に生かすため、なんらかの形がつけられればと思います。各分科会で提案、アピールされたものをまとめると、具体的に行動できるものとして「呼びかけ」あいさつ運動が挙げられます。今後も全市を挙げて、昨年からの始めた「あいさつ運動」に「呼びかけ運動」を含め、さらに強力に進めていくことを、この場で提案したいと思います。（拍手で確認）ありがとうございました。

今後は全市的に あいさつを含めた 呼びかけ運動を推進

第3回白根市「生徒指導会議」

全体会司会

まとめ